

第26回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。

[軽金属学会特別功労賞]



小山 克己 君
(株式会社UACJ 主幹)

小山 克己 君は、大学院時代からアルミニウム合金材料の組織制御やその利用加工技術の高度化等の研究開発に携わってきた。その中でも、高強度アルミニウム合金の延性に及ぼす不純物水素の影響やその水素挙動の可視化技術等の研究成果により、学術研究および技術開発に顕著な功績をあげたとして第1回軽金属躍進賞を受賞した。

一方、同君は本学会の理事を務めるとともに、編集委員会および総務委員会の活動を通して長きにわたり運営面で貢献した。編集委員会においては、編集幹事および副委員長として10年間、会誌「軽金属」の編集、投稿論文の査読、解説記事や特集号の企画立案に努めた。さらに執筆要領の見直しや電子化への対応の検討などを通して、投稿数の減少対策と会誌レベルの維持向上に尽力した。総務委員会では総会の運営とともに、人材育成活動やホームページを活用した広報活動に力を入れた。また総務委員長として総合計画委員会に参加し、会員数減少等の本学会の課題に対し、多様化する会員に寄り添った会員サービスの向上、男女共同参画委員会の設置、会費制度の見直しや本学会創立70周年記念事業準備等に熱心に取り組んだ。この時期、日本における約100の工学系学協会を束ねる日本工学会からの要請に応え、本学会代表として理事を兼務し学協会間の連携を深めた。さらに成功裏に終わった第12回横浜や第18回富山でのアルミニウム合金国際会議(ICAA)では、実行委員あるいは組織副委員長として参画し、企画や運営面で大いに尽力した。

以上のように本学会の発展に対する40年の長きにわたる貢献は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会特別功労賞を授与する。

[軽金属学会功労賞]



谷畑 弘之 君
(YKK AP株式会社
生産本部 素材技術部
技術企画室 主幹)

谷畑 弘之 君は、1988年に吉田工業株式会社(現YKK AP株式会社)に入社後、アルミニウム材料に関する技術開発に一貫して従事してきた。その開発の成果はアルミリサイクルにおける鉄元素不純物の影響を先取りした内容であり、軽金属学会講演大会やICAA5で発表、「軽金属」誌に3件の論文を発表している。本学会では入会以来長年にわたって運営に参画しており、2010年度から北陸支部幹事、2012年度から高橋記念賞選考委員会委員、2013年に第124回春期大会実行委員会委員等を務め、2021年度からは本部理事、男女共同参画委員会の担当理事として、学会運営を支えている。その間、講演大会では座長やポスター審査員なども多く務めており、2022年に開催されたICAA18(富山)では地元企業の代表として実行委員とともに実行委員長をサポートし、実務的な運営に尽力、貢献した。

本学会での研究活動としては、2014年度から「ミュオンスピン緩和スペクトル法の応用研究部会」とその後継部会に参画、現在も「6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会」の部会員として活動している。これら長年にわたる貢献により2021年には軽金属学会70周年記念功労賞を受賞した。2020年度からは日本アルミニウム協会の循環委員会委員も務めており、アルミニウム業界の発展に日々尽力している。

以上のように同君の軽金属学会に関する功労は極めて顕著であり、軽金属学会功労賞に相応しいものとして、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



茂泉 健 君
(いすゞ自動車株式会社
IM推進部 技監)

茂泉 健 君は、1991年にいすゞ自動車株式会社に入社以来、一貫して生産技術の分野でアルミニウム合金鋳物の表面改質工法、低圧/重力鋳造工法および材料、熱処理工法の開発に従事してきた。1998年に軽金属学会に入会し、研究委員会の委員として、アルミニウム材料の自動車への適用に係る議論にも積極的に加わり、関連成果は講演大会における多数の発表だけでなく、「軽金属」誌において、研究論文あるいは解説記事として報告してきた。特に自動車エンジン用部品に求められる材料強度に関しては、有益な情報を提供している。現在も産学連携につながる共同研究などを積極的に展開し、関連分野における学術研究の向上に留まらず、社会への技術成果の還元という観点でも、軽金属学会の発展に大きく貢献している。2013年度からは関東支部運営委員としても、支部主催の研究発表会や工場見学会などで実務の中心的な役割を果たし、軽金属分野の人材育成にも貢献してきた。秋期大会においては、第125回大会(2013年)以降、毎回実行委員として大会運営に多大な貢献をしている。

以上のように、同君の軽金属学会に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。